

連載
第67回

福聚山史

文池浦泰憲

お施餓鬼に語られ、伝えられた
「胎籠祖師堂」の由来

○史料の発見

先日、お寺の古い書類を整理していたところ、一つの茶封筒を見つけた。

中には手紙やら何やらいろいろと紙が入っていたが、その中に一枚のチラシを見つけた。チラシには、

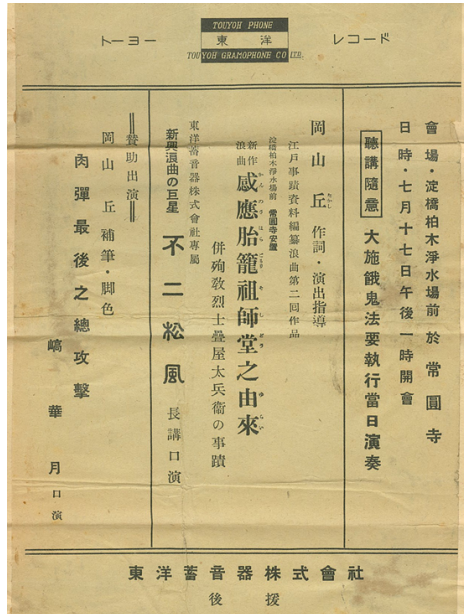
会場・淀橋柏木浄水場前 於 常圓寺
日 時・七月十七日午後一時開會

聴講随意 大施餓鬼法要執行當日演奏
とあり、どうやら常圓寺の施餓鬼法要の
前の演奏会のチラシのようである。

そして、演奏されるのは「感應胎籠祖
師堂之由来」と題された「新作浪曲」で
あるという。「感應胎籠祖師」とは、もち
ろん「淀橋柏木浄水場前 常圓寺安置」
と付されているように、今も常圓寺祖師
堂に祀られる祖師像のことである。それ
を題材につくられた浪曲が、「新興浪曲
の巨星 不二松風」という浪曲師によつ
て語られることになっていったようである。

○昭和三十五年の手紙

さて、このチラシには残念ながら年が
記載されていないが、一体いつ頃のもの
なのであろうか。その答えが同じ茶封筒
に入っていた手紙に書かれていた。



施餓鬼での浪曲披露を宣伝するチラシ

施餓鬼での浪曲披露を宣伝するチラシ

この手紙は消印から昭和三十五年に当
時の常圓寺住職であった及川真学上人に
宛てられたものと考えられる。この手紙
によれば、この浪曲が披露されたのは昭
和十一年であるという。今から八十三年
前、現在と同じ七月十七日に厳修された
施餓鬼法要の前に披露されたということ
になる。

○「菊香堂錦升」氏

この手紙の差出人は「菊香堂錦升」と
いう人物であった。この手紙の他、同じ
差出人の二通のハガキが残されており、
それらによると、昭和十一年に「及川御
山主」、つまり当時の住職及川真能上人
の依頼でこの浪曲を公開したという。先
のチラシ(番組表)には「岡山丘 作詞・

演出指導」とあり、手紙の差出人「菊香
堂錦升」と同一人物であろう。調べてみ
たが、残念ながら、浪曲師などの中にこ
の人物を見つけることはできなかった。

○新作浪曲を奉納

さて、この手紙であるが、内容は二十
五年前に常圓寺で披露したこの新作浪曲
の台本が常圓寺に残っているかどうかを
問い合わせるもので、もし、戦災で台本
が焼失してしまったならば、自分の手元
にある台本を元に改めて書き直し、奉納
したいというものであった。それに対す
る返信がわからないので、どのようなや
りとりになったのかは詳しくはわからな
いが、残されたハガキから推測すると、
おそらく常圓寺には件の台本が残ってい
ないことが伝えられたものと思われる。
最初の手紙から約一ヶ月後、錦升氏から
新たに書き直された台本が届けられたよ
うである。そしてこの奉納された台本も
同じ茶封筒に残されていた。

○「感應胎籠祖師堂之由来」

残された台本は、筆書きで
十四頁にしたためられ、常圓
寺の「胎籠祖師像」について
の由緒と、それが奉安される
祖師堂建立の由来について、
関わる人物や様子が臨場感を
もって語られている。常圓寺
の祖師像が、江戸時代の天保
の数年間、雑司ヶ谷にあった
鼠山感應寺にその由緒をもつ
ことは、常圓寺の歴史をひも

とく中で、折に触れ紹介されてきたが、
その由来に加え、副題に「併 殉教烈
士 豊屋太平の事蹟」とあるように、廃寺
となったいた感應寺の再興を願い、殉教
した幕末の豊職人太平(台本によると新
宿原町経王寺の檀信徒という)について
も語られている。明治から芸として確立
してきた浪曲は、「浪花節」といわれるよ
うに、世俗の義理人情を主題とするもの
が多いが、この浪曲も「胎籠祖師像」を
祀る感應寺を再興するという、信仰に殉
じた一職人を語り、常圓寺に奉安される
祖師像がそのような篤い信仰を集めてい
た由緒が語られたのであろう。

○伝えられる由緒と記憶

この新作浪曲には「江戸事蹟資料編纂
浪曲第二回作品」とのタイトルも付けら
れている。当時、江戸に関わる事蹟を浪
曲によって編纂し、それを語り伝えてい
くという動きがあったのだろうか。今回
の史料からは、鼠山感應寺から常圓寺へ
という「祖師像」の事蹟や由緒・記憶が
戦争を挟み、しかもそれがお寺の外から
の力によって受け継がれていたこと、そ
の一端をみることもできるのでないだ
ろうか。

ところで、手紙の中で当時六九才で
あった錦升氏は、この奉納について「老
後の思い出に後世に遺したい」といつて
いるが、実はこの時、もう一つ氏より常
圓寺に届けられたものがあった。

(次回に続く)